

北海道大学と連携したアート作品の展覧会が東京で開催

～流氷の音声を使用した作品から「環境」について考える～

【概要】

北大 CoSTEP がアーティストに協力し、流氷をテーマにしたアート作品が誕生

北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) では、アートを通じた科学技術コミュニケーションを実施しており、その活動の一環としてアーティストを学内に招き、滞在制作を支援するアーティストインレジデンス事業を行っています。2019年2月から3月にかけてアーティストの上村洋一 (かみむらよういち) さんと CoSTEP スタッフは北海道斜里郡ウトロに滞在し、流氷とそれを取りまく環境についてリサーチを行いました。現地では、マイクロフォンとフィールドレコーダーを使って、流氷が流れ着いたオホーツク海的环境音を収録。さらに流氷の一部を採取して音声とともに再構成し、作品の素材としました。

今回、CoSTEP との協同から生まれた上村さんの作品の展覧会『仮の大地 / Temporary ground』が、東京都内のアートギャラリー『MARUEIDO JAPAN』にて開催されます。流氷が作り出す音から制作されたインスタレーション*1は、周囲と相互作用しながら存在する「環境」について考える機会を提供します。

オホーツク海の変化を音で可視化する

冬のオホーツク海にやってくる流氷は、温暖化などの気候変動の影響を受けつつ毎年その姿を変えています。上村さんはこの流氷を、自然物とも人工物とも呼べない不確かで曖昧な存在、『仮の大地』と呼びます。『仮の大地』で録られた音の鑑賞体験は、周囲のものと影響を与えあう「自然」や「環境」、ひいては「人間活動」の姿を可視化します。

【タイトル】 日本語：仮の大地 / 英語：Temporary ground

【WEB】 http://marueidojapan.com/info/exhibition/temporary_ground/

【日程】 2019年5月31日 (金) ～6月21日 (金) ※日曜、月曜、祝日は休廊日

【営業時間】 11:00 - 18:00

【入場料】 無料

【場所】 MARUEIDO JAPAN (東京都港区赤坂 2-23-1 アークヒルズフロントタワー 1F)

- ・東京メトロ 南北線・銀座線「溜池山王駅」12番出口より徒歩3分
- ・東京メトロ 南北線「六本木一丁目駅」3番出口より徒歩4分
- ・都バス 01系統 新橋行「赤坂アークヒルズ前」徒歩0分

【制作協力】 北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター
科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP)

お問い合わせ先

北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター 科学技術コミュニケーション教育研究部門 (CoSTEP) 准教授 奥本素子 (おくもともとこ)

T E L 011-706-5320 F A X 011-706-5320 メール okumoto@open-ed.hokudai.ac.jp

配信元

北海道大学総務企画部広報課 (〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目)

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール kouhou@jimu.hokudai.ac.jp



ウトロ町に滞在し、流氷の音を録音する制作の様子

【アーティストプロフィール】

上村洋一 (かみむらよういち) さん 1982 年生まれ

聴覚や視覚といった感覚を通して風景に触れることで、気象や天文といった現象の在り方について探求している。それは必ずしも自らの感覚的な経験によって捉える事が出来ない「自然」の存在をどのように捉えるかということであり、人間と非人間の間にある「環境(Ambience)」について向き合うことであると考えている。主にフィールド・レコーディングを素材にインスタレーションを制作し、国内外で発表している。

<http://www.yoichikamimura.com>

【用語解説】

*1 インスタレーション … 現代芸術において、従来の彫刻や絵画というジャンルに組み込むことができない作品とその環境を、総体として観客に呈示する芸術的空間のこと。